

岳間小校区のしぜんのびっくりを見つけたよ！！

山鹿市立岳間小学校 2年生 6名

1 しらべることとしらべかた

- (1) いつ、どこで、何をはっけんしたかをカードにまとめる。
- (2) カードには、目で見えたこと(いろ、大きさ、ようす)、におい、耳にきこえたこと、手ざわり、あじ(食べたり、みつをすったりできるものだけ)を絵や文でかく。
- (3) 小さいものは、虫めがねやマイクロスコープでしっかりと見る。
- (4) 同じものは、春、なつ、秋、冬のようにすくらべて書く。
- (5) はっけんしたばしょは、校区や学校の地図にシールをはる。
- (6) 大きさがかわったものは、わかりやすく図にする。

2 はっけんしたこと(しらべたけっか)

- (1) はっけんしたばしょ(地図にシールをはったもの:図は省略)
- (2) 竹のびっくり(図:略)
しるしとしるしの間が長くなっていた。ちゃえんの手入れのとき、おちゃ畑のさは、ねっこがつながっていて、なかなかぬけなかった。
- (3) チョウのびっくり
 - ツマグロヒョウモンチョウ(図:略)
よう虫は、パンジーを食べる。くろくて毛虫みたいだから、先生がこわがった。毛は、オレンジのもようから2本ずつ出ている。大きくなって、花だんからぞうきんがけのところまでうごいて、ぞうきんがけのぼうにぶら下がってさなぎになった。10秒ぐらいでさなぎにへんしんする。何回も体をふってさいごのかわをぬぐ。かわをぬぐことができないと、さなぎになれない。さなぎの金色のもようがきらきらして、すごい！
 - モンシロチョウ(図:略)
よう虫は、キャベツやダイコンのはを、上から下にむかって上手に食べる。教室でたまごから育てたよう虫は、ほとんどさなぎになるが、畑でとってきたよう虫は、コマユバチが出てきてほとんどさなぎになれなかった。
 - チョウへのへんしん(図:略)
さなぎからチョウになるとき、ツマグロヒョウモンチョウは、血みたいな赤いしるをおとしたので、びっくりした。いたくないのかなと思った。本でしらべると、いらなくなったえきを体の外にすてるそう。モンシロチョウも同じかなと思ってかんさつしたら、うすちやいろのえきをおとしていた。うすちやいろだったから、気づかなかったんだと思った。
- (4) シロツメクサとヒガンバナのびっくり(図:略)
 - シロツメクサは、ねっこでつながっている。だから、一つ四つばを見つけると近くにたくさんある。
 - ヒガンバナをほると玉ねぎみたいな小さなきゅうこんが出てきた。きゅうこんときゅうこんがねっこでつながっている。ヒガンバナのきゅうこんを水さいばいしてみると、細長いはっぱが出てきた。はじめてヒガンバナのはっぱを見たから、ヒガンバナもはっぱがあることがわかった。11月にヒガンバナがさいていたところを見に行くと、みどりのじゅうたんのようになって

いた。

(5) セイヨウタンポポのびっくり (図：略)

学校にはえている草で一番ふかくはえているねっこは、タンポポで、50cmより長かった。タンポポもかたまってはえているので、ねっこがつながっていると思っていたけれど、つながってはいなかった。

(6) スズメバチのすのびっくり (図：略)

市木のハチのすは、バスケットボールよりずっと大きかった。もようがきれいで、あながいっぱいある。岳間小学校に、ハチのすはないけれど、5月～6月にかけて、ときどきスズメバチが入ってくるのでドキドキする。でも7月になると見かけなくなる。

(7) カナヘビのびっくり (図：略)

ひっくりかえすとしんぞうがどくどくうごいているのが見えた。体はざらざらしていて、長さは12cmぐらい。どの足にも5本ずつゆびがある。人なつっこくて、手にのる。ワラジムシを食べる。カナヘビの赤ちゃんは、よわいのでコオロギが食べることもあるそうだ。

(8) ジョロウグモのびっくり (図：略)

かんさつしたジョロウグモは、目の数は5つだった。本でしらべると8つあるそうだ。ジョロウグモの目はくろくて、体に毛もふさふさあるので数えにくい。かていか室のまどのくものすは、1mぐらいあってびっくりした。くものすは、きいろでべたべたしている。

(9) ススキのびっくり (図：略)

ススキのはっぱは、マイクロスコープで見るとのこぎりのはのようにぎざぎざしている。ゆだんすると、はをとるとき、手が切れてしまう。紙も切れるかためしてみた。紙に、はっぱをまっすぐあてても切れなかったが、ななめにあてるときれいに切れた。ススキのほは、花なのに花びらがないのでふしぎだ。

3 わかったこと、しらべてみたいこと

- (1) しょくぶつは、ねっこやきゅうこんやたねでひろがるということがわかった。
- (2) ねっこでひろがるしょくぶつは、草とりがたいへんだ。わけは、ねっこに土や石がからまったり、ねっこがふかいところまでひろがったりしているからだ。
- (3) 岳間にすむ人たちは、岳間校区をヒガンバナでいっぱいにしようとしている。だから、花のくきが上がる前に草をかってしまう。ヒガンバナがいつもひがん前に出てくるから、草かりをする日にちがわかるそうだ。ヒガンバナは、どうしてひがんの日がわかるのかふしぎだ。だから、来年しらべてみたい。
- (4) 春は、虫のたまごやよう虫やチョウやハチがいっぱいいる。そして、いっぱいえさを食べる。なつは、ハチが少なくなって、トンボ、セミ、カメムシ、カブトムシ、クワガタ、カミキリムシなどが多く見られる。でも、先生が「岳間はセミが少ない」と言っていた。ツクツクボウシやヒグラシなどすずしいところにいるセミしかいないからだと思う。岳間校区は、すずしいのかなあと思う。秋は、クツワムシ、コオロギ、スズムシなどなく虫が多いことがわかった。
- (5) アカトンボは、9月の終わりがごろだけきゅうに出てくる。さむくなったので山から下におりてきたのだと思う。
- (6) きせつによって、生きもののしゅるいやようすがかわることがわかった。

4 まとめ

岳間校区は、めずらしい生きものがたくさんいて、いっぱいびっくりをはっけんしました。これからもよくかんさつしてびっくりをいっぱい見つけたいです。